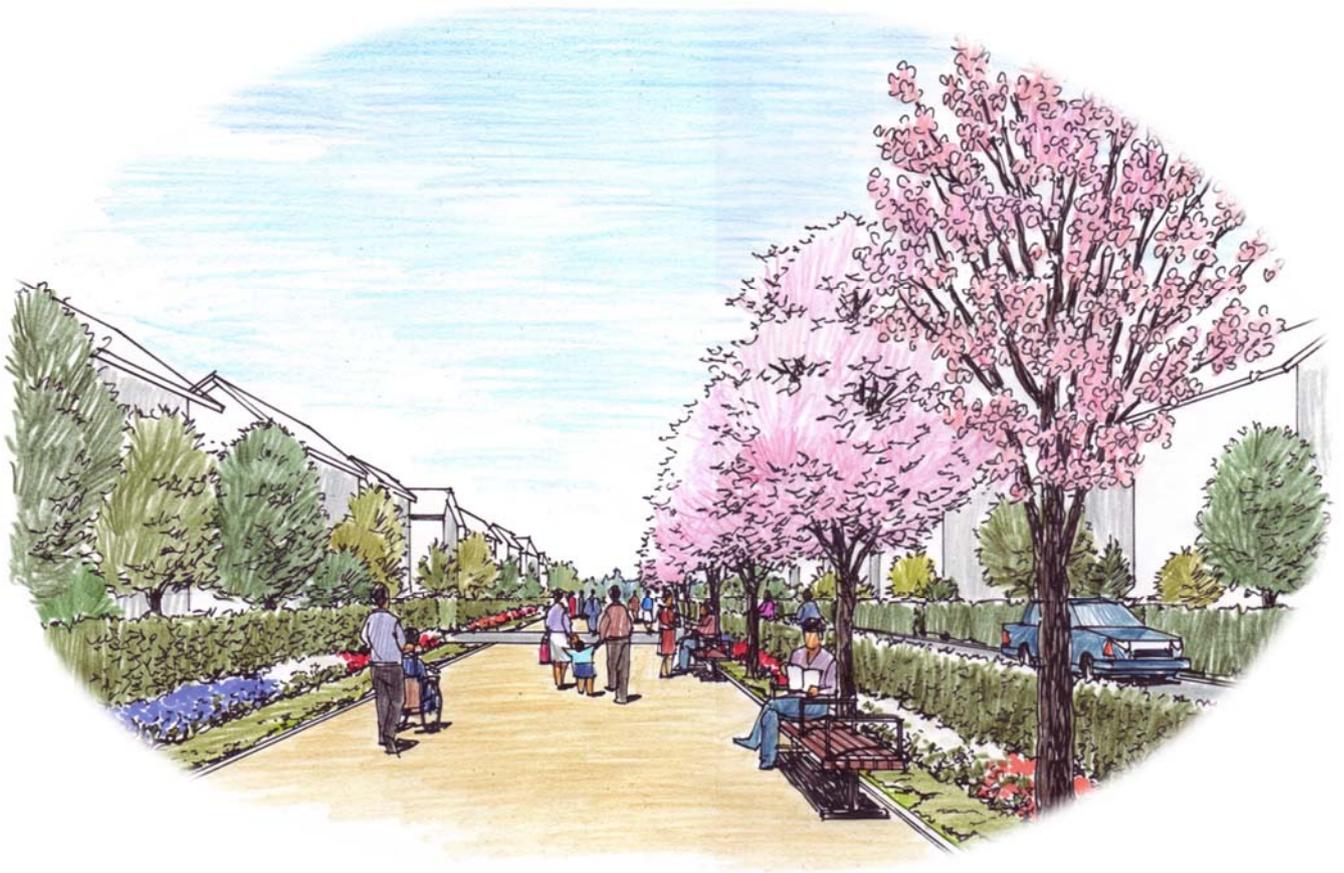


鉄道敷地整備計画



平成28年3月

調布市

はじめに

調布のまちは今、市制施行以来最大規模の大きな変貌を遂げつつあります。平成24年8月に京王線の地下化（柴崎駅～西調布駅間の約2.8km、調布駅～京王多摩川駅間の約0.9km）が実現し、これに連動した調布・布田・国領の各駅前広場整備や調布駅南北の市街地再開発事業、布田駅南の土地区画整理事業、鉄道敷地の利用、各駅周辺の道路整備等、21世紀の調布のまちの骨格づくりが着実に前進しています。

また、同時並行で、調布駅周辺で鉄道敷地における民間複合商業施設（多摩地域最大級のシネマコンプレックスを含む3棟）の開発が進められており、こうした調布のまちの変貌を機に、ソフト・ハードが一体となった魅力のあるまちづくりを推進するとともに、調布の魅力を市内外に発信し、まちの発展につなげていく必要があります。

これらを踏まえ、調布市では、調布・布田・国領3駅をつなぐ貴重な都市空間である鉄道敷地を有効に活用し、にぎわいや交流、うるおい、やすらぎのある都市空間として整備に取り組むに当たり、今後の整備方針となる「鉄道敷地整備計画」を策定することとしました。

今後は、本整備計画をもとに、整備区間ごとに市民参加を交えながら具体的な設計を行い、用地取得・整備工事を進めます。

目 次

はじめに

1 鉄道敷地 1

- (1) 鉄道敷地とは
- (2) 鉄道敷地の位置付け

2 検討経緯 3

- (1) これまでの検討経緯
- (2) 中心市街地デザイン・コンセプト
- (3) 鉄道敷地利用計画図
- (4) これまでの市民参加の取組

3 整備計画 8

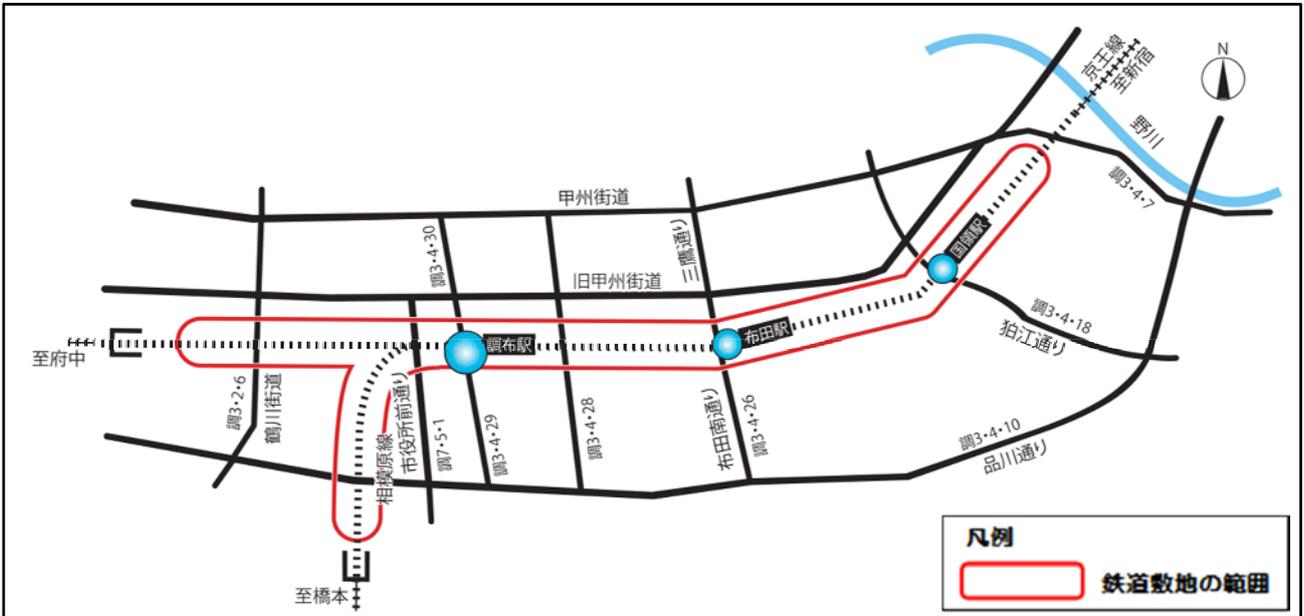
- (1) 整備計画とは
- (2) 全体整備テーマ
- (3) エリア
- (4) ゾーン
- (5) 断面の考え方
- (6) 概要図

4 今後の検討事項 27

1 鉄道敷地

(1) 鉄道敷地とは

鉄道敷地とは、京王線連続立体交差事業によって創出された、調布・布田・国領3駅の駅前広場と各駅をつなぐ線路跡地のことを示します。



○京王線連続立体交差事業とは

京王線の柴崎駅～西調布駅約2.8kmの区間と相模原線の調布駅～京王多摩川駅間約0.9kmの区間を地下化することにより、18箇所の踏切道を解消するとともに8箇所の都市計画道路を立体化するものです。

平成13年度 都市計画決定
平成10年度 建設省（現国土交通省）事業採択

平成16年度 工事着手
平成14年度 事業認可取得

平成26年度 事業終了
平成24年度 京王線地下化

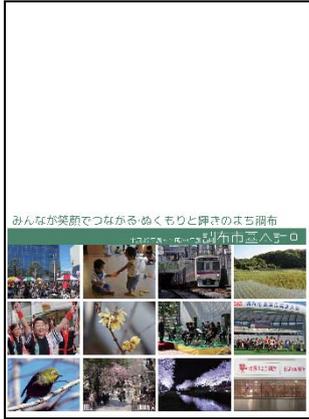


(出典：京王電鉄(株))

(2) 鉄道敷地の位置付け

鉄道敷地は、市の上位計画である調布市基本計画及び調布市都市計画マスタープランにて、にぎわいや交流、うるおい、やすらぎのある都市空間として整備していくこととしています。

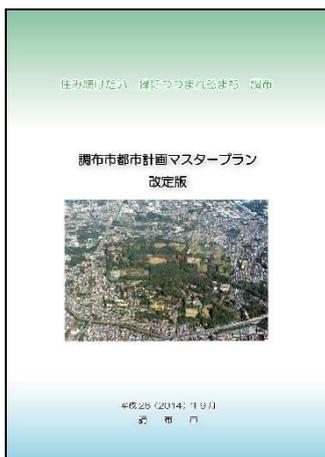
○調布市基本計画



(出典：調布市基本計画)

施策番号	22	地域特性を生かした都市空間の形成	
基本的取組の内容	22-1	調布・布田・国領3駅の駅前広場と各駅をつなぐ鉄道敷地の連続した空間を有効に活用し、にぎわいや交流、うるおい、やすらぎのある都市空間として整備を進めます。	
事業番号	81	事業名	鉄道敷地の整備
事業概要	京王線連続立体交差事業により生み出された貴重な都市空間を有効に活用し、にぎわいや交流、うるおい、やすらぎのある都市空間として、鉄道敷地の整備に取り組みます。		

○調布市都市計画マスタープラン（改定版）



(出典：調布市都市計画マスタープラン（改訂版）)

第6章	特定市街地の整備		
第1節	中心市街地	鉄道敷地の有効活用をはじめとする沿線まちづくりの一体的な推進による魅力的な市街地の形成、中心市街地として、将来その都市的機能の充実を図っていきます。	
(2) まちづくりの目標	⑤鉄道敷地	中心市街地を生活拠点として整備するため、鉄道敷地の効果的な活用を図ります。鉄道敷地に連続したゆとりとうるおいのある空間を創出することにより、調布・布田・国領駅間の連携を図り、安全で快適な、にぎわいと環境の調和した都市空間を創出します。	
	鉄道敷地利用に当たっての取組方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 ゆとりとうるおいのある空間の創出 2 安全で快適な交通環境の整備 3 地域の発展の促進 4 水と緑の回復・創出 5 活気とにぎわいのある都市空間の創出 	